



# 確かな学力の向上をめざして【7月】

## 「特別の教科 道徳」の評価について

小学校では今年度から、中学校では来年度から「特別の教科 道徳」が全面実施となります。「特別の教科 道徳」の評価について、校内研修等で共通理解を図ることが必要です。

### 「特別の教科 道徳」の目標と評価の考え方

#### 【道徳科の目標】

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

#### 【道徳科の評価の考え方】

道徳科のねらいは、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」です。



ただし、評価においては児童生徒の道徳性は評価しません。それは、内面的資質を評価することは困難だからです。

道徳科では、授業における児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価します。

道徳科で養う道徳性は、児童生徒が将来いかに人間としてよりよく生きるか、いかに諸問題に適切に対応するかといった個人の問題に関わるものです。どれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定することは適切ではありません。



### 「特別の教科 道徳」の評価の在り方

道徳科の評価については、次のように整理されています。

- 数値による評価ではなく、**記述式**であること。
- 個々の内容項目ごとではなく、**大きくくりなまとまり**を踏まえた評価を行うこと。
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**として行うこと。  
※個人内評価とは、児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価
- 道徳科の学習活動における児童生徒の**具体的な取組状況を一定のまとまりの中**で見取ること。
- 調査書に記載せず、**入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする**必要があること。



児童生徒の学習状況をどのように見取ればよいのかな？

子どもたちは、「特別の教科 道徳」で、道徳的諸価値についての理解を基に、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習をしていきます。その学習過程で見られる子どもの2つのポイントについて見取り、評価しましょう。



①道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中でどう深めているか。



②児童生徒が、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか。

【注意】 通知表などに次のような評価はふさわしくありません。



「誠実」について深く理解し、道徳性を高めることができました。

道徳性について評価しません。

「やさしさ」について学習し、学校生活の中で友達に優しくする姿が見られました。

道徳科では、行為・行動については評価しません。成長した行為・行動については、一般所見や行動の記録などに記載しましょう。

道徳ノートを活用など「評価をするための方策」についても、共通理解して進めましょう。